

まち

No.19 2022年 秋号

発行日：令和4年10月25日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531(学科事務室)
発行責任者：岡田智秀(教室主任)
編集担当：小木曾 裕、西山孝樹
制作：株式会社 ムーンドッグ

巻頭言

皆さんの可能性は無限大

学生の皆さん、コロナ禍の中、いろいろ大変ではありますが、楽しい充実したキャンパスライフをお過ごしですか。本年度から対面の講義となり、講義、演習、ゼミ等で皆さん一人一人のマスク越しの顔を拝見し、楽しそうに友達と談笑されている姿を、嬉しく見えています。

皆さんは、将来のことを考えると可能性の塊です。

学生は多くの可能性がある、私はいつも思っています。私は長年、いろいろと学生や社会人の頃の後輩を見てきて、人それぞれ花開く時期はその人によりさまざまであると実感しています。若いうちから脚光を浴びる人、ある年齢になってから認められる大器晩成型の人などさまざまです。

人にはいろいろなタイプがあり、努力型の人、感性の良い人、時間はかかるがいつの間にか一人前になっていく人、いろいろと苦労する人、人への教え方がうまい人など、さまざまです。ですから自分の可能性を信じて諦めずに取り組めば、自分の夢や希望は必ず叶えられます。今、うまくいかないとか、私は人より劣るなどと決めつけずに、自分の脳裏や感情に湧いてくる得意なこと、好きなことを大事に少しずつ磨き上げていくと、他の人には無いオリジナリティーのある強みが出来上がっていきます。

いかに早く結果を見いだせるかと、最短の道を探りたくなることもあると思います。もちろんそれを見つけて出すのも素晴らしい能力です。しかし一見、右に左に行くと遠回りのようであっても、他の人には見えないものを見ることができ、他の人には無いオリジナルの、人の心を打つものが備わってきます。

社会との接点を持とう。

大学に入り、どのような仕事に就こうか、皆さん考えられると思います。この広報誌の特集は13号から「職場

contents

巻頭言	1
特集 まちづくり工学科3・4・5期生の「職場での活躍」	2
学部4年生・修士1年生へ「就職活動へ向けて」	11
令和4年度前期「まち」行事・イベントカレンダー	13
教職員・学生の活躍	16

特任教授 小木曾 裕



での活躍」として、奇数号は毎回、卒業して2年目のフレッシュな卒業生を紹介し、在学生や高校生、保護者の方にも、まちづくり工学科の幅広い分野から社会に巣立った卒業生の活躍の様子を感じてほしいと企画しています。また、ここに紹介できない卒業生もさまざまな分野へ就職しています。さらに就職担当の仲村先生が「就職活動へ向けて」でスケジュール、情報収集、授業との関係等を丁寧に解説してくださっていますので、じゅうぶん生かしてください。

3年生になると、方向の決まっている人や、まだ決まらず模索している人など、本当に人それぞれさまざまです。学科で用意しているインターンシップ等も、じゅうぶん活用してください。またアルバイトから実社会の一部を覗くこともできます。勉強、研究、生活等、自分が信じたことに必死に取り組めば、夢は叶うと思います。もし途中で挫折した時も、「だったらこうしてみたら」というアドバイスを受けながら、諦めずに続け、積み重ねると夢は叶います。私は学生への指導の中で、常に将来の夢につなげることが大切と思い、対応しています。そしていつか大きく花開く時を楽しみに待っています。

皆さん大きな夢を持ち、元気に大学生活を過ごしてください。皆さんの可能性は無限大ですので、心・メンタルと体を自分の方法で鍛え、有意義に過ごしていただきたいと思います。



◀東京大空襲で焼失した表参道のケヤキですが、大学時代のアルバイト先の社長さんが戦後に寄贈し植えたことを社会人になってから知り、感動しました。



▲当時寄贈されたケヤキと同潤会青山アパート：現在、表参道ヒルズ（写真提供：原宿表参道榎会）

まちづくり工学科3・4・5期生の

職場での活躍

まちづくり工学科の卒業生は、新時代に直面する中で、学科が目指している「暮らしの総合デザイン」を社会で実現するために、専門知識や技術を持って社会で幅広く活躍しております。

この広報誌の「卒業生の職場での活躍」特集も、今回で5回目になります。本号では3期生と5期生の7名が、就職してから1年がたったところを紹介させていただいています。そして今回は、大学院修了後イギリスに留学した3期生と、大学院の博士後期課程に進んだ4期生の、そこでの学びも紹介しています。

この期の方々、就職活動時期から新

型コロナウイルス感染症まん延の状況と闘いながら、就職をされ、現在はそれぞれの職場で活躍されています。

在学生はもちろんのこと、これから当学科を目指したいと考えている高校生にも、当学科の卒業生のさまざまな経験談や後輩へのアドバイスから、ご自身がこれからそれぞれの道を進み社会生活をする上で、また在学時の勉学やさまざまな活動の仕方などに役立てていただけたらと思います。

現在、令和5年3月卒業予定の7期生の4年生は、内々定が出た人、また就職活動中の人とさまざまで、皆頑張ってい

ます。また3年生は、インターンシップ等で企業や行政機関へ行き、就職先を検討しています。新型コロナウイルス感染拡大防止の状況ではありますが、教員と学生が連携しながら、皆頑張り新たな歴史を積み上げていきます。

「まちづくり工学科」の特徴である幅広い就職先での活躍をご一読いただければ幸いです。また、広報誌「まち」のバックナンバーはまちづくり工学科のホームページに掲載しておりますので、併せてお読みいただければと思います。

(「まち」編集長 小木曾 裕)



建設コンサルタント



建設



住宅建設



不動産



運輸



公務員



公務員



進学



進学

まち科卒業生に聞きました。

1

どんなお仕事を
していますか？

2

お仕事での目標
はなんですか？

3

学生時代に打ち
込んだことは？

4

後輩に就活への
アドバイスを！

・卒論テーマ、修論テーマの研究室名は、在学時のものです。



コンクリート構造物の点検（チョーキング）風景

1

主に道路附属物の点検と、防災設計・構造物設計に従事しています。道路附属物点検は、道路標識や照明、情報提供装置などの「道路附属物」と呼ばれる施設を点検する仕事です。これらが道路へ落下、倒壊した場合、道路利用者の被害に直接つながります。それを未然に防ぐために、日々の点検作業が必要となります。防災設計・構造物設計は、地すべりや道路法面（落石など）に対策工を設計し、道路をより安全に利用できるようにするものです。落石防護柵や法枠など、意外と身近にあるものです。その他、点群データを活用した業務等も行っています。

2

まずはさまざまな経験を積むことを

目標としています。業界における主要な資格（技術士等）の取得が大きな目標のひとつですが、多くの資格は受験要件として実務経験が定められているため、まだ受験することができません。そのため、当面の間はこの先の資格取得に向けて上級技術者のもとで経験を積み、自身の技術力を向上させること、また業界内や他社の動向等にも目を向け、技術者として成長することを目標としています。

3

入学して1年半くらいは、とにかく大学の勉強に必死でした。アルバイトも遊びも、あまり多くできませんでした。勉強を効率的に

できるようになり、また内容にも慣れてからは、アルバイトや友人と遊ぶことが増えていきました。草野球チームを作って野球をしたり、旅行や釣りをしたりしました。毎日の予定を細かく立て、講義の課題に取り組んだり遊んだりすることで、充実した大学生活を送ることができたと思います。

4

まずは興味のある分野を見つけることではないかと思います。私の場合は、とにかく合同会社説明会に参加しました。さまざまな会社や業種を見ていく中で、興味のある分野が見つかるかもしれません。

興味のある分野を見つけた後は、インターンシップへの参加をおすすめします。私も3年生の夏に1週間ほど参加したことで、業界の状況や業務内容などがイメージしやすくなり、その後いろいろな会社を調べる上で役に立ちました。



地元の草野球で

仲山 涼介 ▶ 5期生

国際航業株式会社
インフラマネジメント部西日本道路マネジメントグループ

卒論テーマ わが国の空港における観光拠点化に関する基礎的研究(北海道・東北地方の地方管理空港を対象として)(天野・西山研究室)

好きな「まち」 神戸

出身高校 千葉県立我孫子高等学校



1

私は「施工管理」の仕事をしています。ゼネコンの施工管理というと、現場で汗水たらしながら働いているイメージが、皆さんにはあるのかなと思っています。しかし、実際のところは少し違います。現場で手を動かしてくれるのは職人さんです。工事を安全かつ工程通り進められるように作業調整や打ち合わせを行うことや、不具合が出ないようにどう納めていくかを検討することなどが、私たち施工管理者の主な作業内容です。

新型コロナウイルスの感染対策といった現場の環境整備も私たちの仕事です。もし集団感染が発生して現場が止まれば工程に大きな影響が出てくるので、徹底した管理を行っています。

2

1～5年目の若手の場合、ひとつの



朝礼時。その日の作業確認や注意事項等の伝達を行う(看板を指でさしているのが筆者)

工事を担当することが多いのですが、現在配属されている現場の規模が小さいこともあり、工程表の作成など現場全体の

調整を行う重要な役割をいただいています。非常に責任ある業務ですが、その分やり遂げた時の達成感は大きく、やりがいを感じながら仕事をしています。今後も経験を重ねていき、大規模な現場でも同じように重要な役割を果たせる存在になりたいです。そしていつかは、作業所長として日本のランドマークになる建物に携われるようにになりたいです。

3

理工学部準硬式野球部に所属して活動していましたが、大学時代の記憶はアルバイトをしたことと大学や高校の同期と遊んだことで埋め尽くされています。充実した日々でしたが、唯一後悔していることが、一級建築士の勉強



理工学部準硬式野球部の試合後。この後に飲むビールが最高！(前列右から二人目が筆者)

強など自己研鑽に時間を割けば良かったということです。社会人になって、時間の融通がきくのは学生時代までだと実感しています。ゼネコン勤務になると、一級建築士や一級施工管理技士の資格取得が昇進の条件でもあるので、自分が目指す業界に必要な資格があれば、今のうちに勉強しておくことを強くおすすめします。

4

私は、あるゼネコンのインターンシップに1週間参加し、そこで働く姿を見て施工管理者のイメージが変わり、ゼネコンを強く志すようになりました。気になる業種や企業があれば、まずインターンシップや説明会に参加することで、自分自身に合った企業を見つけてほしいです。また、さまざまな業界にまち科の卒業生がいるので、まち科で学んだことがどう生かせるかなど、卒業生ならではのアドバイスが得られると思います。私は意欲的な後輩にはぜひ協力したいと考えていますが、それは他の卒業生も同様だと思います。ですからぜひ、私たち卒業生を頼ってください!!

真砂 哲也 ▶ 5期生

株式会社竹中工務店 東京本店

卒論テーマ 木目模様仕上げにおけるせき板の転用がコンクリート表面の仕上がり状態に及ぼす影響(後藤研究室)

好きな
「まち」 金沢

出身
高校 東京都立
城東高等学校

1

私の所属する部署は、事務所や工場、倉庫などの施設を設計しています。私は実際に法人企業の事業所を担当し、行政とのやり取りや Revit を駆使しながら作図を行っています。また、大型倉庫のボリューム検討なども、上司や先輩のサポートを受けながら行っています。

作図や図面の修正等、一人でもできる業務の場合はテレワークをして、新型コロナウイルス感染予防対策を行っています。オンラインでの打ち合わせも多いため、個人に合った働き方をしています。

2

まちの課題や魅力を引き出し、技術面からソリューションできる人間になりたいと思っています。そのためにはまず、技術者として設計の腕を磨く必

要があります。実際にものを見ることや、納まりをたくさん検討し、資格も取得することで知識をつけていきます。いろいろなことに興味を持ち、そして疑問を持って解決することで、どんどん自己成長をさせたいと思っています。

『まちづくり』に対して建築士としてアプローチし、常に時代の変化に対応できる幅広い解決方法を持った技術者になることが大きな目標です。

3

アルバイトや旅行、学業に資格取得、コンペなど、たくさんの経験を学生の時にしました。その中でもとくに打ち込んだと言えるのは、設計課題だ



まちづくり工学科卒で大和ハウスの都市開発の先輩と再会（左が筆者）

は、自分の土台になったと思います。就職活動においても、ポートフォリオを評価していただきました。何かひとつのことにに対して全力で取り組み結果を出すことを、学生のうちに経験できたことは自信につながりました。

4

建築の意匠設計においても、まちづくりの幅広い知識は大切になります。まちづくり工学科で学ぶ景観、観光、福祉などからアイデアやヒントを得て、設計課題に生かしポートフォリオを作成すると良いと思います。

就職活動は一人で悩まず、教授や先輩などからたくさんの意見やアドバイスをもらうことが重要になります。内定をもらうことをゴールとせず、10年後20年後どうなっていたいかを考えて就職活動をしてください。コロナ禍でコミュニケーションが取りづらいとは思いますが、オンラインをうまく活用して頑張ってください。応援しています。



都市地域デザイン演習にて（左端が筆者）

中坂 俊介 ▶ 5期生

大和ハウス工業株式会社 東京建築設計部

卒論テーマ 建築的要素からのショッピングセンターの転用とまちとの関わり方に関する研究(依田研究室)

好きな
「まち」

金沢

出身
高校

千葉県立
国府台高等学校



1

私は施設管理や店舗管理を担当するオペレーション担当として、現在勤務しているイオンモール旭川駅前配属されました。同店舗では、年2回の実施が義務付けられている防災訓練の主担当を担いました。

入社初年度はコロナ禍であったため、専門店従業員さま向けの対面研修が実施できず、開催方法を変更する必要がありますがありました。そこで私は、各専門店で貸し出しているタブレットを用いた新たな訓練手法を提案し、実施しました。消火器操作の手順や避難経路などの実践的な取り組みをクイズ形式で理解してもらうよう工夫した結果、専門店従業員さまから高評価をいただきました。今後はより実践的な内容にな



イオンモール旭川駅前



防災訓練の説明と、問題用紙およびタブレット

るように、現在計画しています。

2

入社2年目の現在は、防災訓練のほかにも専門店の入退店に伴う区画内工事の担当も行っています。入店予定の専門店の担当者さまとの打ち合わせや、内装規定に関する図面確認などが必要になります。また、オープン日までに滞りなく作業を完了させるためのスケジュール管理など、難しい点も多いですが、オープンした時の達成感はひとしおです。こうした思いから、今後は館内の区画だけでなく、新店舗の企画開発や複合開発のプロジェクトなど、多くの地域住民から愛されるような生活拠点を提供できるような「地域連携」に関わる仕事に携わりたいと考えています。

3

私が学生時代に打ち込んだことは、研究活動です。卒業研究で行ったウォーターフロント開発の事後評価に関する研究では、全国の港湾管理者へのアンケート調査にもっとも苦慮しました。さらに修士論文では、石川県七尾市の「みなとまちづくり」について調査を行い、当時の関係者や港湾管理者へのヒアリング調査や、地元イベントへの参加など、さまざまな経験をさせていただきました。その後の論文作成には



七尾市でのヒアリング調査（右側手前が筆者）

苦戦しましたが、研究室の先生方にサポートしていただき、無事に完成させることができました。また研究活動以外でも、夢であった地球一周を実現するなど、公私ともに充実した日々を過ごせたと感じています。

4

私はある程度の業種や就職先を絞って就職活動をしていました。企業説明会への参加やOB訪問を繰り返すなど、できる限りのことはしたと考えています。しかし、入社してからひとつだけ、就職活動の時にやっておけば良かったと思うことがありました。それは「なるべく多くの業種を見ること」です。実際の業務では必ずしもひとつの分野のことをやるわけではなく、さまざまな業種の方と接する機会が多くあります。その時に、さまざまな業界について知っていることは、とても強みになります。そのため、これから就職活動する皆さんには、自身の志望している職種ではなくても一度調べてみることをおすすめします。

樋口 伊吹 ▶ 3期生

イオンモール株式会社 イオンモール旭川駅前

卒論テーマ ウォーターフロント開発の事後評価に関する研究—ポータルネットワーク21とマリントウンプロジェクトに着目して—（岡田・田島研究室）

修論テーマ 地方中小港湾におけるウォーターフロント開発を中心としたみなとまちづくりに関する研究—七尾フィッシャーマンズワーフの事業内容とその空間的特徴に着目して—（岡田・田島研究室）

好きな「まち」 サンフランシスコ

出身高校 日本大学 習志野高等学校





品川駅山手外回り線ホーム切換作業時と切換後（上段）業務中の様子（下段）

1

私の部署では、首都圏を中心としたエリアでの鉄道施設の新設改良や、国や自治体と連携して地域活性化に貢献するプロジェクトなどを担当しています。鉄道事業者の建設部門であり、日々列車を運行している中でお客さまへの安全・安定輸送を第一に「より良いもの」「より早く」「より安く」つくることができるよう、関係者と協議して設計・施工計画等について日々調整しています。

職場のコロナ対策としては、所内外問わず Web 会議の推進を図っています。また、フレックス制やテレワークが定着しており、その日のスケジュールに合わせて柔軟に働くことができる環境が整っています。

2

私の目標は、2つあります。

プロジェクトに反映していきたいです。

2つめは、土木業界を少しでも働きやすくすることです。私は去年、現場を担当しましたが、連日、夜間の作業をする施工会社の方々がいることで、弊社のプロジェクトを進めることができていたことを実感しました。土木業界全体で人材不足が問題となる中、発注者の立場から改善していけることがないか、模索しています。

3

私は、学業以外だとダンスに打ち込みました。地元のスタジオに通っていたため、サークルとは違い、中学生から社会人まで幅広い年代の仲間と作品を作り上げていました。ダンスでは、個人のスキルアップ以外にも、みんなでひとつの作品を作るために日々のコミュニケーションを大切にしてい

ました。

これらは仕事にも通じていて、より良いものをお客さまへ提供するためには、施工会社や行政の関係者等との連携が必要です。ダンスで学んだことを生かして、個人的な土木知識の習得だけでなく、多くの人と一緒にものを作っているという意識を忘れずにしていきたいです。

4

私は、将来どんな仕事がしたいのか明確ではなかったため、積極的にインターンシップに参加するだけでなく、教授や家族等周りの人によく相談をしていました。社会人になると他社を知る機会が少なくなるため、学生のうちに多くの会社へ足を運び、その会社で働く人の話を聞くことは貴重な経験となりました。しかし、就職活動の中では会社のすべてを把握しきれない上に、面接等で評価されるつらい時期でもあると思います。社会人になってもさまざまな選択ができる機会があるので、まずは自分から行動をして、最後は気負わずに選択できれば良いと思います。



ダンスの発表会



鶴川 春加 ▶ 5期生

東日本旅客鉄道株式会社
東京建設プロジェクトマネジメントオフィス

卒論テーマ 新幹線利用客を対象とした帰宅困難者対策(仲村研究室)

好きな
「まち」 京都

出身
高校 千葉県立
柏中央高等学校

1

横浜国道事務所は神奈川県内の国道を管轄しており、私は「管理系」の部署に所属しております。業務内容としては、工事の発注がメインです。発注する工事は、橋梁の補修工事や高架橋の耐震補強工事、道路の舗装工事のほか、過年度の台風で被災した西湘バイパスの復旧工事（護岸工事）などです。また、数カ月に1回ほど、入省して4年目までの職員を対象とした現場見学会を行っており、当事務所で事業中である圏央道の現場を見に行ったりしております。

私の職場でもコロナ対策を実施しており、在宅勤務や時差出勤（早出、遅出）の実施、Teams を利用した Web 会議などを行っております。

2

まずは、現場に行った際や「現在、道路がこういった状況になっている」という連絡を受けた際に、どういう状

況なのかを瞬時に理解・把握できるようになりたいと考えております。事務所はとくに、突発的な事象（事故や災害など）が発生することが多く、迅速な対応が求められます。そのためにも、できるだけ多く現場を見て、知識・経験を積み重ねることが大切であると考えます。

そして、現場の状況などを自分自身でしっかりと第三者に理解してもらえようような説明ができるようになりたいと思います。技術系公務員として「インプット」して「アウトプット」する、こうした一連の流れがじゅうぶんにできるようになることが目標です。

3

学生の間は比較的自由に使える時間があつたため、なるべく実際に足を運び、まちの様子を観察し、取り組みを調べるよう心掛けていました。セミナーのようなものがあれば参加し、防災



卒業研究の対象地とした流山市

の取り組みなどについて、発表者から学びを得ていました。

卒業研究では研究対象地であった流山市を訪れ、実際にまちの様子を調査したほか、市役所を訪れ、職員の方から市で行っている「シティプロモーション」のお話を伺いました。コロナ禍ということもありいろいろと制約がありましたが、できる限り統計データや情報を収集し、何とか卒業論文を完成させることができました。

4

専門試験で出題される構造力学、地盤力学、水理学などについては、授業で出される課題にしっかり取り組むことが大事であると考えます。大変な部分もありますが、課題を毎回しっかりこなすことで、一次試験対策もそこまで苦にはならないと思います。また、何冊も違う参考書を購入して問題を解くよりも、同じ参考書の問題を2、3周こなすほうが、効率が良いと思います。

公務員試験は不明な点も多いので、戸惑うことがあると思います。わからないことがあれば、遠慮せずに進んで先生などに相談することが大切です。



2022年6月末に完了した西湘バイパスの災害対策工事

鈴木 太凱 ▶ 5期生

国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所

卒論テーマ “シティプロモーション”を活用した“シビックプライド”の形成に関する研究(高村研究室)

好きな
「まち」

臨海副都心

出身
高校

穎明館高等学校



区画整理地（八潮市南部西部地区）



区画整理地内をヘリコプターで撮影

1

私が所属している八潮新都市建設事務所では、区画整理事業の実施に関する業務を行っています。その中でも私は、工務担当として宅地造成や道路築造の工事発注とその施工管理をはじめ、区画整理地内の維持管理や住民の方からの御要望への対応と申請等の窓口業務を行っています。現在は事業も終盤を迎えており、事業の完了に向

けて日々尽力しております。

職種にもよりますが、新型コロナウイルス感染予防対策として在宅勤務の実施や Web 会議の活用を行っています。

2

目標は、定年まで働き続けることです。この仕事を志望した理由である「生まれ育った埼玉県に貢献したい」という思いを胸に、今後も尽力したいです。

3

サークルには所属していませんでしたし、アルバイトは人並み、資格も取得していません。学生時代に頑張ったことを挙げるなら、卒業研究です。

私はサッカーにおけるホームアドバンテージに関する研究をしました。まちづくりとは関係のないよう

4

な研究にはなってしまいましたが、指導教授の青木和夫先生の御協力のもと、自分の好きなことを題材にして研究ができたと思っています。

当時は「働きたくない」という思いから就職活動も面倒くさがっていましたが、どうせ働くなら自分が一番行きたいところに就職したいと思い、幼少期から憧れがあった埼玉県庁を目指すことにしました。頭が悪かったので現実的ではないと悩んでいた時に、筆記試験を一部免除する代わりにプレゼンテーション試験を行うという方式を目にして、これならチャンスがあると思い受験をした結果、何とか合格することができました。

私がアドバイスできることとすれば、自分のやりたいことは何かを考えて、それを実現するための方法を模索することです。そうすることで、どんな結果であれ後悔のない就職活動になると思います。



卒業式

牧野 雅行 ▶ 5期生

埼玉県都市整備部 八潮新都市建設事務所

卒論テーマ サッカーにおけるホームアドバンテージに関する研究
(青木研究室)

好きな
「まち」

浦和

出身
高校

日本大学
豊山高等学校



海外の大学院に留学

菊原 綾乃

▶ 3期生

**MSc Urban Planning,
University of the West of
England Bristol**

卒論テーマ 地下街の地上出入口の形成過程に関する研究—出入口のデザインに着目して—(歴史まちづくり研究室)

修論テーマ 神田川及び日本橋川における水辺空間利用の歴史の変遷に関する研究(歴史まちづくり研究室)

好きな
「まち」

Brisbane,
Queensland,
Australia

出身
高校

日本大学
鶴ヶ丘高等学校



1 どんな勉強をしていますか？

大学院の講義では主に“WHAT, WHY, and HOW is the planning”を学びます。他専攻の学生、留学生在がイギリスのプランニングを比較的理解しやすい設計です。1、2学期は講義、3学期は修士論文に取り組みます。修士論文は60単位、もしくは30単位+インターンシップの2つから選択可能です。

2 今後の目標はなんですか？

今後は卒業に向けて、イギリス国内の公共空間における Over design に関する修士論文の執筆と、3学期目から始まるインターンシップにおいて Marine Management Organisation というイギリスの政府団体の活動を通して学びを深めつつ、卒業後はイギリス国内もしくは、ヨーロッパ圏等を視野に入れ就職活動を行う予定です。



1学期目最初の授業で行われた Bristol のフィールドトリップ

3 学生時代に打ち込んだことは？

学生時代に打ち込んだことのひとつに外濠市民塾があります。複数の大学の研究室が集い、公共空間である「外濠」の価値を探り、その活用方法について調査・研究を行う学生主体の団体です。在学中は、新たなストリートファニチャーを考案し、実践に至るまでメンバーと共に成果を残すことができました。

4 後輩に就活へのアドバイスを！

大学留学は情報収集と環境を整えるために行動することができれば難しいことはありません。情報も容易に入手可能です。また、自分にとって適切な時期を長期的な視野を持って選択することも重要です。留学は、日本ではまだ学べないことや、さまざまな出会いと発見に富む、良い機会です。



外濠市民塾で制作したストリートファニチャーの試作品完成時(右端が筆者)

大学院生になって気がついたこと

まちづくり工学専攻博士後期課程1年
秋元 美咲(4期生)

皆さんは、大学院での学びに対してどのようなイメージを持っていますか。「大学4年間の学びをより深める」「学位取得が



2022年6月の駿河台入試フォーラムにて「キャンパスライフ」の発表

目指せる」といったイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。

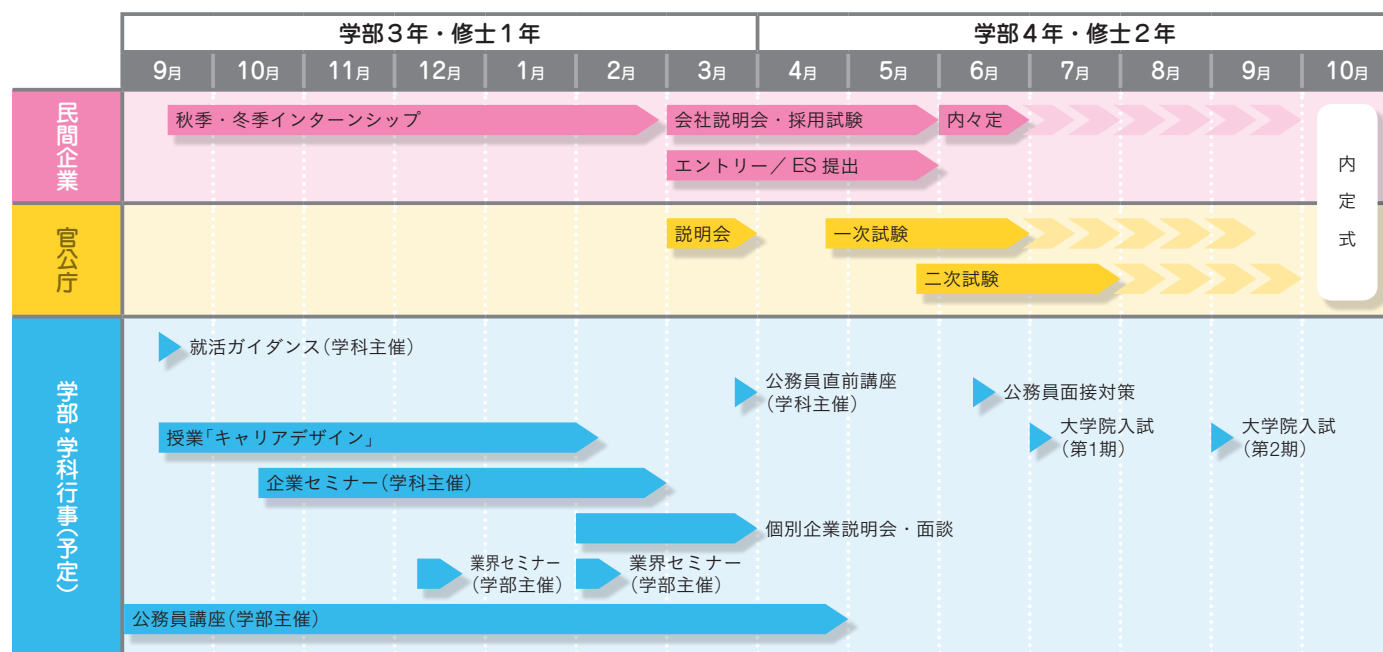
しかし私は日々の大学院生活の中で、いわゆる学問的な学びだけではなく、人との関わりの中から得られる学びもあることに気がつきました。例えば、TAや研究室活動(ゼミナール、卒研指導)などに参加した時には、私自身が学部生だった頃を振り返りながら、学部生の皆さんが課題や研究などで直面する問題に対して一緒に考えることができます。学部では授業を「受ける」ことが学びの主となりますが、大学院生になると学部の学びを俯瞰することができるようになり、それによって気がつくことが数多くあります。

またオープンキャンパスでは、私が大学院生だとわかると「学科で学べること」のほかにも「なぜ大学院に進学しようと考え

たのか」についての質問を、来場した高校生から受けることがありました。まちづくり工学科での4年間を経験し大学院に進学したことで、学部生の頃を振り返り、その時に自分自身が何を考えていたのか、何をすることができたのかについて、深く考えるきっかけとなりました。

このように、大学院生になってからの学内外の方々との関わりによって学生生活について振り返ることができ、その中で得た多くの学びや気づきによって、今の私が向き合う研究テーマについてより深く考えられるようになっただけではなく、さらに自らの専門性を高めることにもつながっています。





キャリア支援・就職活動の概略スケジュール

就職活動はみなさんの今後を左右する大切な機会です。これを機に真剣に将来を考え、悩み、自分の道を切り拓いてください。

1. まずはスケジュールを確認しよう

みなさんが対象である2024年卒の就活スケジュールについては、昨年度までのスケジュールを踏襲する方針が政府より示されています。しかし、実際には多くの企業がこれよりも早い日程で実質的な選考を進めることが想定されます。

公務員試験については国家公務員採用情報 NAVI (<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>) や公務員試験情報こむいん (<http://comin.tank.jp/>)、各自治体のホームページ等を頻繁に確認して情報入手しましょう。

本学大学院入試は、例年6月下旬～7月初旬(推薦・一般

第1期)、9月(一般第2期)、3月(一般第3期)に行われます。研究活動を通じて人間力を高め、自分の可能性を広げるためにも大学院進学を検討しましょう。

2. 始動しよう

本年度より、後期火曜1時限目に必修科目「まちづくり工学キャリアデザイン」を開講します。今後のキャリアを形成していくための具体的な情報をみなさんに提供し、具体的な進路を考え、対策を進めてもらいます。

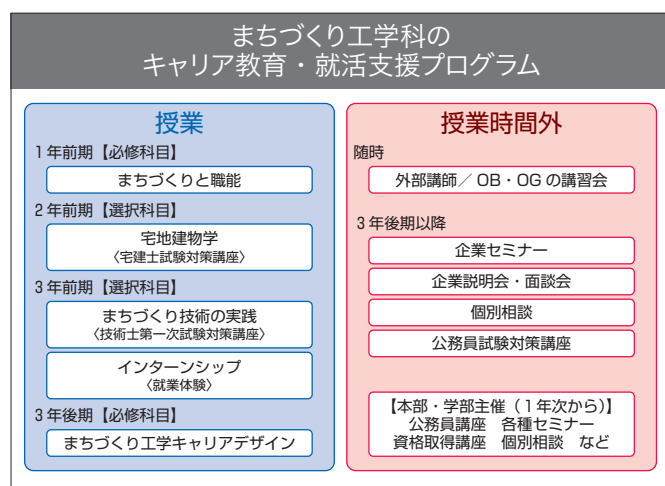
3. 情報収集しよう！

・まちづくり工学科から発信する情報を活用しよう！

まちづくり工学科独自の就職活動支援サイトは、夏季インターンシップでも活用してもらいました。今後も各種情報(秋季/冬季インターンシップ・セミナー・説明会などのイベント情報、OB・OG・リクルータ提供情報、求人情報(学校推薦・自由応募))の入手や、まちづくり工学科の先輩たちが残してくれた貴重な就職体験記・公務員試験合格体験記が閲覧できます。また、就職全般/公務員メーリングリストでもさまざまな情報を発信していきます。メーリングリストへの登録方法は授業「まちづくり工学キャリアデザイン」で説明します。

・まち科や大学主催の行事を活用しよう！

まちづくり工学科では「就職活動ガイダンス」「企業セミナー」「OB・OG・リクルータによる説明会・面談」「公務員一次試験・面接対策講座」を開催予定です。実際に働いている方々の話を直接聞いたり、質問したりできる貴重な機会



です。パンフレットやインターネットからだけでは入手できない、みなさんが本当に必要とする情報を得るチャンスです。また、本部や学部が主催する「公務員講座」「業界セミナー」なども多数開催予定です。大学で開催する行事では、参加企業・団体等がみなさんを過度に勧誘することは決してありません。安心して積極的に参加しましょう。詳細は、まち科就活支援サイトで案内します。

・就活関連の冊子を活用しよう！

「CAREER2023」は理工学部オリジナルの就活支援冊子です。有益な情報がコンパクトにまとまっていますので活用してください。また、書店にはSPIや玉手箱等の筆記試験対策、履歴書・ES（エントリーシート）の書き方、面接対策、公務員試験対策など就活に関する本が多数あります。必要に応じて自分にあったものを選ぶとよいでしょう。

・就活支援サイトやNU就職ナビを活用しよう！

リクナビ、マイナビ、キャリアス、日大独自のNU就職ナビにも有用な情報が多数掲載されています。秋季／冬季インターンシップ・合同セミナー・説明会などへのエントリーや申し込み、書類提出もこれらのサイト経由で行う企業がほとんどです。

・学外行事（インターンシップ、セミナー、説明会、講演会など）にも参加しよう！

1day など短期間で開催される秋季／冬季インターンシップは、実質的な就職活動の一環とってください。就活支援

サイトや各企業のホームページなどで開催が告知されます。まち科就活サイトでも案内します。

・周りの人に相談しよう！

自分の考えを整理したり、自分の意思を確認するためにも、家族、友人、ゼミ・卒研の指導教員、就職指導課キャリアアドバイザーなど、身近な人に相談するとよいでしょう。所属研究室・ゼミに関係なく、学科の就職指導担当教員（仲村・田中・八藤後）、公務員指導担当教員（高村・後藤・八藤後）も、もちろん相談にのります。

・就職指導課を活用しよう！

就職指導課では、常駐のキャリアアドバイザーから就職活動全般についての相談、ES（エントリーシート）や履歴書の添削、面接対策等の指導が対面またはオンラインで受けられます。詳しくは就職指導課のホームページを参照してください。

4. 授業について

就活に気をとられ過ぎて授業をサボってばかりでは本末転倒です。大学は就職予備校ではありません。みなさんが最優先すべきことは大学での勉強であることを決して忘れずに。

われわれ教員はできる限りみなさんをサポートしていきます。相談などあれば遠慮なくどうぞ。

まちづくり工学科就職活動支援サイト

日本大学メールアカウントでログイン後に、以下のURL もしくは QR コードでまち科就活サイトへアクセスしよう！

まちづくり工学科の教員及び学生のみ閲覧可能

<https://sites.google.com/nihon-u.ac.jp/machicarrier/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>



令和4年度前期 “まち” 行事・イベントカレンダー

3/25 金 卒業式（学位記伝達式）（駿河台キャンパス タワー・スコラ S505教室 午前11時開始）

例年、学位記伝達式は武道館での卒業式挙行後、午後に実施していますが、本年度も昨年に引き続き、密を避けるため、午前に式典を実施しました。

※写真注釈は令和3年度の研究室名で記載しています。また、写真撮影時のみマスクを外しています。



阿部研究室



岡田・落合研究室



小木曽研究室



後藤研究室



仲村研究室



西山・天野研究室



押田研究室



4/2 土 - 8 金 前期ガイダンス

〈教室主任〉岡田 智秀（補佐：後藤 浩）

〈担任〉1年生 後藤 浩、西山 孝樹、牟田 聡子

2年生 阿部 貴弘、山崎 晋

3年生 押田 佳子、依田 光正

4年生 落合 正行、田島 洋輔、田中 賢

大学院 仲村 成貴

〈就職〉仲村 成貴、田中 賢、八藤後 猛

〈学務〉後藤 浩

〈広報〉西山 孝樹



新1年生（船橋キャンパスにて）※写真撮影時のみマスクを外しています。

4/7 木 新入生歓迎式

4/8 金 入学式

4/9 土 前期授業開始

学部の授業では、1年生を対象に開講される一般教育科目および同日の科目はオンラインとし、それ以外は原則として対面で授業を実施しました。また、大学院の授業も対面で授業を実施しました。



1年生「測量実習Ⅰ」で実施したTS（トータルステーション）の据付と測距・測角（船橋キャンパス）

6/12 日 駿河台入試フォーラム（駿河台キャンパス タワー・スコラ S203教室）



まち科ブース来場者数：408名

理工学部総来場者数：741名（来校者のみ。オンライン参加を除く）

6/19日

付属高校生のためのオープンカレッジ（駿河台キャンパス タワー・スコラ S203教室）



まち科ブース来場者数：329名

理工学部総来場者数：719名（来校者のみ。オンライン参加を除く）

6/25土

後援会父母面談会（駿河台キャンパス
タワー・スコラ S401・S402・S406教室）

7/16土

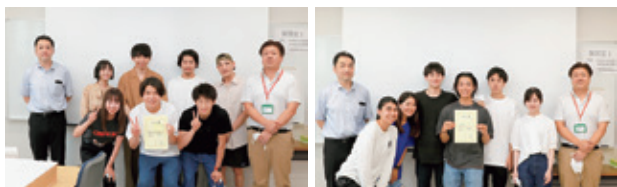
『まちづくりワークショップⅡ』
成果発表会

2021（令和3）年に、理工学部と包括連携協定を締結した千葉県富里市を対象とした「まちづくりワークショップⅡ」の成果発表会を実施しました。発表会場には市職員の皆様をお迎えすると共に、オンラインでは住民の皆様にもご参加いただきました。さらに、五十嵐市長にもオンラインで言葉を頂戴し、優秀な発表を行ったグループに対して表彰をしていただきました。

○七栄地区Aユニット：小関 大輔、鈴木 真悠、平安山 侑乃、宮田 翔、岡 朱里、香取 潤

「富里市七栄の人口動態別に見た景観分析」

○日吉台地区Eユニット：市橋 駿訓、小川田 千夏、尾崎 滉生、清水 大介、瀧 ちとせ、望月 勝統、今溝 大稀
「日吉台×集いと賑わい＝陽シティ 地元愛 貴方といいたい 日吉台」



七栄地区Aユニット

日吉台地区Eユニット

※写真撮影時のみマスクを外しています。

7/23土

令和4年度第1回修士論文審査会（駿河台
キャンパス タワー・スコラ S204教室）

大学院理工学研究科まちづくり工学専攻博士前期課程2年（M2）の学生9名が対面形式の審査会に臨み、会場からは活発な議論、質疑応答が行われました。

No.	氏名	発表タイトル
1	鬼澤 美妃	化学物質過敏症に配慮したまちづくりに関する研究
2	神田 侑伎乃	大学キャンパスにおける一般開放の実態と空間特性に関する研究 —関東圏内のキャンパスを対象として—
3	菊池 晃央	新聞記事にみる東京ウォーターフロントの歴史の変遷に関する研究 —明治期から令和期までを対象として—
4	久保 凜一郎	東東京エリアにおける遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」の促進方策に関する研究
5	佐下 楯 あゆみ	東京都心部における狭小神社の存続性に関する研究
6	笹村 正大	ワンルームマンション入居者と地域の交流に関する研究 —都市部での関係人口の創造—
7	品田 康太	北海道におけるインフラツーリズムの展開方策に関する研究 —運営主体及びツアーコンテンツに着目して—
8	福永 裕大	住宅団地の再生における民間企業の参入と持続可能な取り組み体制の構築についての研究
9	森安 祥大	洪水によって冠水するエリアに立地する事業所・農家・一般家屋からの危険物質の流出に関する考察



8/5金 - 6土

オープンキャンパス

まち科ブース来場者数：1日目 905名、2日目1,027名

理工学部総来場者数：1日目3,026名、2日目3,277名

令和4年度のオープンキャンパスはご入場できる人数の制限はありましたが、対面で実施することができました。まちづくり工学科ブースへお越しいただいた皆様、ありがとうございました。



8/27 土 後援会地方父母面談会

宮城会場（岡田 智秀）1組

9/30 金 9月卒業学位伝達式

まちづくり工学科卒業生：3名

後援会役員（父母役員）※敬称略

1年 松永 勝也
2年 コロナ禍であったため、選出されておられません。
3年 尾崎 彰吾
4年 三浦 邦明
大学院 菊池 秀夫

教員人事

■ 昇格

西山孝樹助教が「准教授」へ昇格（4/1）

田島洋輔助手が「助教」へ昇格（4/1）

■ 昇格



■ 昇格



■ 学科主任人事

岡田智秀教授が「教室主任」退任（9/30）

後藤浩教授が「教室主任」就任（10/1）

■ 退任



■ 就任



教室主任退任挨拶 岡田智秀 教授

このたび、教室主任の任務を学科規定の2期4年を迎え無事退任となりました。この間に一貫して掲げたヴィジョンは、第一に「学科運営の形骸化予防のための「ワンストップチェック」、第二に「学生ファーストと若手人材育成」、第三に「学生の入口（学科広報）・出口（就職対策）・そのプロセスの充実化（自主創造力の向上）」の3つでした。これらの必要性は、教室主任の就任直後に直面します。それが新型コロナウイルス対応でした。従来の大学・学科運営にはなかった対応が求められ、大学入構制限をはじめ、それに伴うオンライン授業を余儀なくされ、それらの異議・賛同が交錯する中で日々の学科運営・授業運営に迫られるという局面に立ちました。その解決の糸口として、上述のヴィジョンを丁寧に組みつつ、学科教員の皆様と対話を重ねることで方向性が見えてきました。本学科は、さまざまな分野を横断する組織体であるだけに、各分野の立場で耳を傾けることが重要になりますが、これについては私自身が複数の

建築系学科・専攻を経験してきたことがお役に立てたのではないかと感じています。その他、日本大学が逆風に晒される報道も経験し、在学生や受験生の学科イメージ低下を払拭すべく広報活動に注力した時期もありました。こうして振り返ると小説の1冊でも書けるのではないかと考えていますが、総括すると、これまでの数々の難局を乗り越えられたのは、やはり学科教職員の皆様方がワンチームとなって協調いただけたこと、本学部事務局の皆様方に多大なご支援をいただいたこと、そして保護者様をはじめ校友の皆様方にご理解とご支援をいただいたこと、このことに尽きると感じています。この4年間にわたり、お世話になった皆様方には心より御礼申し上げます。

今後も学科スタッフの一員として、本学科の発展に少しでも貢献できるよう頑張りたいと思います。

教職員・学生の活躍

2022年3月1日～9月30日

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

[受賞]

■ 特任教授 天野光一

感謝状

対象：静岡県屋外広告物審議会会長5期10年の功績に対して
受賞年月日：2022年9月28日

■ 特任教授 八藤後 猛

生活支援工学会論文賞

対象：基本動作能力に応じた排泄動作と便所改造項目の尺度化（高齢者・障害者のための住環境整備における評価尺度に関する研究）（橋本美芽（都立大）、植田瑞昌（日本女子大）、野村歡（元・日大）との連名）
受賞年月日：2022年8月20日

[書籍]

■ 特任教授 小木曾 裕

書籍名：『造園大百科事典』（朝倉書店）※分担執筆

発売年月日：2022年7月1日

[新聞に掲載]

■ 教授 阿部貴弘

朝日新聞夕刊「まちの記憶 日本橋本町」（3面）（取材記事）

発行年月日：2022年5月30日

随時情報を小木曾・西山へメールでお寄せください。なお、本年度の学会等での発表は、次号（3月発行予定）にまとめて掲載します。

■ 客員教授 清水英範

建設通信新聞「情報共有し議論—イノベーション大会」(コメント掲載)

発行年月日: 2022年 6月16日

日刊建設工業新聞「産業界のリーダーに」(コメント掲載)

発行年月日: 2022年 6月27日

建設通信新聞「技術者増やし測量の品質確保」(コメント掲載)

発行年月日: 2022年 6月28日

日刊建設工業新聞「専門技術者研修を開催」(コメント掲載)

発行年月日: 2022年 6月28日

建設通信新聞「活性化へ活動展開」(コメント掲載)

発行年月日: 2022年 7月 1日

[雑誌等に掲載]

■ 教授 阿部貴弘

記事名: インフラから解き明かす近世城下町町人地の設計論理 (招待記事)

掲載誌: 『考古学ジャーナル』 Vol.769, pp.48-52 (ニュー・サイエンス社)

発行年月日: 2022年 5月23日

■ 准教授 西山孝樹

記事名: 特別企画「遺産を学ぶ旅—土木学会・日本造園学会共同編集—」(特集担当主査)

掲載誌: 『土木学会誌』 Vol.107, No.8, 2022 (土木学会)

『ランドスケープ研究』 Vol.86, No.2, 2022 (日本造園学会)

発行年月日: 2022年 8月 1日
2022年 7月30日

■ 助教 落合正行

記事名: 上池台の住宅 (いけのうえのスタンド)

掲載誌: MACHIYA Practical Handbook シン町家実践ハンドブック・序 (江戸東京研究センター)

発行年月日: 2022年 3月 5日

記事名: KENCHIKUさん「上池台の住宅 いけのうえのスタンド」

掲載誌: 建築情報 Web サイト KENCHIKU

発行年月日: 2022年 8月 5日公開

■ 客員教授 清水英範

記事名: 会長就任にあたって

掲載誌: 『写真測量とリモートセンシング』 第61巻第3号 (日本写真測量学会)

発行年月日: 2022年 7月11日

[講演等]

■ 教授 阿部貴弘

水都東京の水辺文化再構築

主催: ちよだ生涯学習カレッジ

開催年月日: 2022年 5月25日

■ 教授 岡田智秀

御前崎市の地域資源を活用した観光まちづくりを考える (コメンテーター)

主催: 御前崎市

開催年月日: 2022年 3月22日 (オンライン開催)

まちづくりの意義と魅力について学ぼう(特別講義)

主催: 千葉県国分高等学校

開催年月日: 2022年 5月23日

景観講演会基調講演「御前崎市景観計画の策定に向けて—景観法に基づく『景観計画』の仕組み・実効性—」

主催: 御前崎市

開催年月日: 2022年 8月23日

ふるさと南摩の景観について考えよう——(第1回)景観まちづくりを知ろう (特別講義)

主催: 栃木県立南摩中学校

開催年月日: 2022年 9月27日

■ 准教授 押田佳子

大樹の継承と観光まちづくり (グリーンエージオンラインアカデミー)

主催: 一般財団法人日本緑化センター

開催年月日: 2022年 8月 1日動画公開

■ 特任教授 小木曾 裕

「多摩平の森」の歴史を知ろう!

主催: 日野市中央公民館

開催年月日: 2022年 5月28日

集合住宅における既存樹木の保全の意義とその手法 (グリーンエージオンラインアカデミー)

主催: 一般財団法人日本緑化センター

開催年月日: 2022年 8月 1日動画公開

■ 客員教授 清水英範

「測量の日」特別講演会『憲法、民法を通して見る日本の土地政策』

主催: 日本測量協会

開催年月日: 2022年 6月28日

憲法、民法を通して見る日本の土地政策

主催: 九州測量専門学校

開催年月日: 2022年 9月16日

[テレビ番組 (撮影協力)]

■ 准教授 押田佳子

NHK Eテレ「フルイコあつまれ」(徳川光圀の回)

放送年月日: 2022年 6月11日

まちづくり工学専攻博士後期課程を修了した渡辺万紀子さん (まちづくり工学科1期生) が「土木学会論文奨励賞」を受賞

2022 (令和4) 年 6月10日に行われた土木学会の定例総会において、まちづくり工学専攻博士後期課程を修了した渡辺万紀子さん (現 株式会社富山市民プラザ) が論文奨励賞を受賞しました。この賞は、40歳までの独創性と将来性に富むものと認められた若手研究者に与えられる賞で、若手研究者の登竜門として最も名誉の高い賞です。

本研究内では、街路空間の賑わい空間が創出される政策が打ち出されるようになり、賑わい創出のための活発な議論がなされるテーマに対し、先駆的な研究を行ってきたことから論文奨励賞としてふさわしいと認められました。

受賞名: 論文奨励賞 授与団体: 公益社団法人土木学会 受賞対象者: 渡辺万紀子
対象論文: 渡辺万紀子・天野光一・西山孝樹: 街路空間における中間領域の類型化とその構成要因に関する研究, 土木学会論文集 D1, Vol.77, No.1, pp.17-32, 2021.3.



編集後記

本号の特集では、先輩たちが社会で活躍している様子をご紹介しました。まちづくり工学科が産声を上げて10年がたち、卒業後に研究室を訪ねてきてくれるOB・OGも増えてきました。彼らが口をそろえていうのは、大学で得た専門知識や能力は、社会に出ると当たり前使うということ。ぜひ、皆さんも授業で使ったノートや配布されたレジュメなどは大事に保管しておきましょう。きっと「これ、どうだったかな?」と見返す時がやってくると思いますよ。

(西山孝樹)